山都町立潤徳小学校　学校だより

潤徳小伝説～永遠に～

潤徳小HP　令和６年２月５日（月）　第４１号
２次元ｺｰﾄﾞ←カラーで見られます！　校　長　池部　聖吾智（みわとも）

閉校に向けての動きから

先週から本校ＨＰトップページに閉校までのカウントダウンを入れました。閉校が現実味を帯びてきたなあと感じます。

３１日、閉校実行委員会を開き各部会の進捗状況報告や式典の準備や当日の運営等について確認しました。地域への案内方法についても協議しました。

２日、統合先である矢部小との交流会を行いました。帰りに子どもたちから感想を聴くと「また行きたい」「早く行きたい」「不安はない」など前向きな意見が多く安心しました。

２日午後、閉校記念誌の編集会議を行いました。記念誌完成に向け、未了ページを埋めるための日程確認や製本数や予算等について確認しました。

今週から地域の方々に式典案内を出します。会場にはまだ余裕があります。多くの参加者に来ていただきたいと思います。

１００点をとって落ち込む、とは・・・？？

「ある大学生の多くは、テストで１００点（満点）をとると『なんだよ、受けた意味なかったじゃないか。このテスト』と落ち込む」という記事を読みました（私の場合、小学校時代から数えても１００点をとったのは、ほんの数回だと記憶します）。この大学生は、「テストを弱点発見の手段」と考えているのです。

ところで、３年生以上対象に１２月実施した県学力・学習状況調査（県学調）の結果が出ました（子どもたちには近日中返却する予定です）。県学調も調査から課題を明らかにし、今後の児童の学習・教師の指導改善に役立てようとするものです。算数は校内研究の成果が表れた結果でした。国語においては若干の課題がみられました。国語は「知的活動・論理的思考力の基盤（文科省文化審議会）」、国語科を原点として、校内の言語環境をさらに整えていきたいと思います。

潤徳抄Ⅱ

閉校も関わり、私の２月のスケジュール帳には、多くの予定が書き込まれている▼さらに新年度は還暦を迎える節目の年になるため多くの役回りを務めることになるだろうし、「オリンピックイヤー」ということで同窓会オンパレードにもなりそうだ。また閉校に伴って勤務地も変わるので、公私ともにあわただしい年になるのは間違いない▼今週も大きな行事がタテ続きに入っている。中でも「本校への〇〇〇〇」は一大イベントだろう。一週間を乗り切れば、すぐに三連休が待っているので頑張りたい▼２日に（日野）斉藤校長と閉校記念式典当日の事について打ち合わせ。式典の流れについて説明した。すると斉藤校長から「ある提案」・・・ありがたい！▼今週末は、大学時代の数学科同級生（現在　県立高校勤務）が所用で熊本に来るので一献傾ける予定だ。年賀状は、毎年やりとりしているのだが会うのは久しぶりだ。